

ハマ ハコ 横浜の公共建築物のこれからを考えるニュースレター

2022年12月26日

「横浜市公共施設等総合管理計画」を
策定しました。



将来にわたって、公共施設をどうやって使い続け、または再生していくか、
その方針をまとめました。

これからの公共施設について、
市民の皆さんと一緒に考えていきます。

公共施設をとりまく状況はどうなっていく??

- 人口減少
- 税収減少
- 老朽化
- 災害リスク



ライフスタイルの変化

脱炭素化・デジタル化

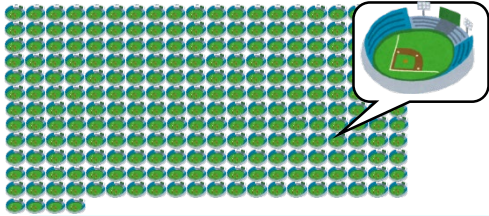


今までの公共サービスのあり方では
対応できなくなることが想定されます。



公共施設の現状

公共建築物：約2,300施設
床面積：約862万㎡



横浜スタジアム244個分!

公園：
約2,700か所



下水道管・水道管・道路
長さ合計：2万8,800km

地球0.7周分!

施設量が急増

- ・1970年代～
学校・市営住宅
- ・1990年代～
市民利用施設
(地区センターなど)

老朽化が
進み…

2065年までに
全体の73%、約625万㎡分が
築70年超に!



公共施設の今後の見通し ~このままいくと45年後どうなっている?~

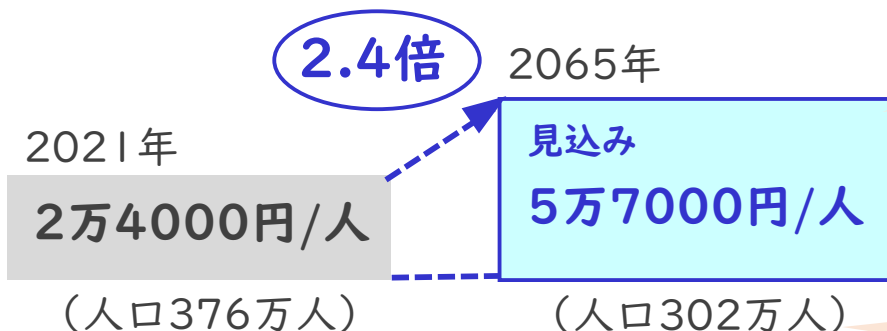
1年あたりの維持管理・再整備のコスト



新国立競技場の
建設費用と同規模!



市民一人当たりに換算した場合



人口減少に伴い
負担割合も増加!



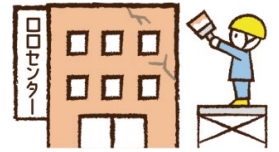
人口は2割減る!

計画の目的(基本方針)

人口や財政の規模が縮小していくなかでも、市民の皆さまに将来にわたってサービスを提供し続けるため、施設の機能・サービスを維持・向上させることを目的としています。そのために、数値目標を設けて取り組んでいきます。

建物や橋の寿命を延ばします

日常の定期的な点検や大規模な改修を計画的に行うことで、70年以上使い続けることを目標に、**建替費用などコストの削減**をしていきます。



将来の施設の全体面積をスリム化します

- 2040年度** 基準時点(2021年度)の総床面積約862万㎡以下に縮減(=現状より増やさない)
- 2065年度** 基準時点(2021年度)から少なくとも1割縮減(=約86万㎡縮減)

Point ただ施設を縮減するものではありません!

様々な手法を検討・駆使しながら、施設の数量・規模、質、コスト等について、将来の人口や財政に見合った「適正な水準」を目指していきます。

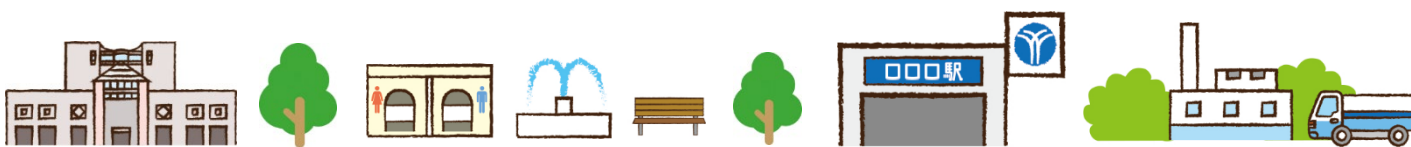
民間ノウハウの活用

新たな運営手法の導入

水準・基準・利用料の見直し

複数施設の複合化

etc...



現在
進行中!

鶴見区・(仮称)豊岡町複合施設

鶴見駅近くの豊岡小学校の建替えをきっかけに、図書館・保育園・区民活動センター等と小学校を再編し、民間機能を含めた**新たな魅力や価値を創出する拠点**の形成を目指して検討しています。

どんな場所に
生まれ変わるのか
楽しみだね♪



「総合管理計画(素案)」に対して市民の皆さまから
たくさんのご意見をいただきました。

公共施設について真剣に考えなければいけないことが分かりました。

現在の利用者ニーズが将来世代のニーズに合致するわけではないため、施設を単純に更新するべきではない。

将来のための1割の延床面積削減、残念ながらサービスを継続するため仕方ない。

公共施設を使っているのは一部のヘビーユーザーだけ。いらない。学校と消防署と福祉系だけでいい。それらも最低限でいい。

経営的な視点をもって公共施設の保全更新をお願いします。

貴重なご意見
ありがとうございます。



一部のみご紹介させていただきました。すべてのご意見はこちらから

[横浜 総合管理計画 市民意見](#)



今後も定期的にお知らせします。

横浜市財政局公共施設・事業調整室
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10
TEL:045-671-2027
FAX:045-671-7599
Mail: za-kokyo@yokohama.city.jp



ハマのハコ



公共建築物を長く使っていくためには、保全や再整備が必要ですが、市民ニーズの変化や財政負担への対応など様々な視点から再整備等を検討していきます。